

歴史工房やまと

History Workshop in Yamato

「工房だより」は、「歴史工房やまと」の活動に関心を示してくださった方々にお送りしています。

「歴史工房やまと(History Workshop in Yamato)」は市民による歴史研究ワークショップです。主として聞き書きの手法により、大和の市民主体の近現代史を学んでいきます。聞き書きの成果は、「聞き書き集」としてまとめ、郷土資料室への寄贈を目指していきます。

活動の経過はニューズレター「工房だより」によって会員の間で共有していきます（「工房だより No. 5」はこれまでの散発的なお知らせをまとめたもので、実質的には「工房だより」の1号です）。

*活動の目的と意義

1. 広い意味では無形文化遺産ともいえる人々の記憶をライフストーリーとして聞き取り、聞き書き集にまとめて後世に残していく。
2. 郷土に生きて活躍した人々のライフストーリーを残す活動をすることによって、コミュニティへの所属意識を高めることになる。
3. 話し手と聞き手がコミュニケーションを図ることによって、結果として、双方に豊かな人生をもたらすことになる。

*これまでの経過と今後の予定

2023 年 8 月	「歴史工房やまと」という名称で、市民による聞き書きを主体として歴史研究グループの設立を呼び掛ける
2023 年 8 月	大和市民活動センターの登録団体になる
2023 年 12 月 1 日	第 1 回聞き書き講座を開催（女性史研究者江刺昭子氏を招いて、神奈川県内の女性史編纂の歴史と女性史学習サークルの活動について講義をしていただいた）参加者 9 名
2024 年 1 月 19 日	第 2 回聞き書き講座開催予定（インタビューにおける録音技能と倫理問題の確認）
2024 年 2 月・3 月	第 1 回と第 2 回の聞き書き講座を踏まえ、インタビューの開始、同時に大和の近現代史の学習をしていく 継続的に参加できるメンバーと次年度の活動方針と「会則」制定に向けて話し合う
2024 年 4 月～	2024 年度の活動計画に基づき、聞き書きと地域の歴史研究に取り組んでいく 「大和の聞き書き集」を冊子として作成し、郷土資料室への寄贈を目指す

*第 1 回聞き書き講座の講師：江刺昭子氏のプロフィール

1942 年 岡山県に生まれ、呉市、広島市で育つ。早稲田大学教育学部国語国文科卒業。大学在学中に大田洋子宅に下宿。在学中、大田洋子の急死に遭遇、卒論は田村俊子を対象に。卒業後文化出版局『ミセス』の編集者に。1970 年退社。大田洋子の評伝『草籠（くさづえ）』（1971）で第 12 回田村俊子賞受賞（1972）。以後、評伝を中心にノンフィクションライターとして活躍。日本エディタースクール講師（1981—2014 年）。かながわ女性史『夜明けの航跡』（1987）、『共生への航路』（1992）の編纂に専門指導員としてかかわる。神奈川県内、東京都で女性史編纂および女性史サークルの指導。

2004 年第 10 回横浜文学賞受賞、2010 年第 59 回かながわ文化賞受賞。現在 女性史サークル「史の会」代表、国立女性教育会館アーカイブ資料選定委員（史の会一次資料データを同アーカイブに寄贈。）

〈主要著作〉『草籠 評伝大田洋子』1971 年、『覚よ女たち 赤瀬会の人びと』1980 年、『女のくせに 草

分けの女性新聞記者たち』1985年、『返子は燃えた、そして、池子住民訴訟ノート』1990年、『女の一生を書く評伝の方法と視点』1994年、『透谷の妻 石坂美那子の生涯』1995年、『中央区女性史、いくつもの橋を渡って 通史』2007年、『樺美智子 聖少女伝説』2010年、『私だったかもしれない ある赤軍派女性兵士の25年』2022年、『時代を拓いた女たち』1～3編著、『史の会研究誌』発行他多数。

*2023年8月「歴史工房やまと」への参加呼びかけチラシと呼びかけ人自己紹介



酒井順子(1951年広島県生まれ)、1980年代からイギリス史、特に19世紀から20世紀にかけてのフェミニズム運動の歴史を学ぶ。最初に取り組んだのは、20世紀初頭の著名な参政権運動家パンクハースト一家の母娘の自伝からみた中層中産階級の女性たちの活動。次に、同じく20世紀初頭に自由党から自立して独自政党となった労働党への選挙支援をおこなった地域女性たちの活動を検討。

その後、1991年に英国エセックス大学に留学し、社会史、女性史、オーラル・ヒストリーの手法を学び、同時にバブル崩壊期の金融街「シティ・オブ・ロンドン」でのライフストーリー調査を実施した。

帰国後は、大学非常勤講師として「イギリス研究」、「論文作成法」、英語などを教えながら、約10年間、日本におけるオーラル・ヒストリーの発展に微力ながら協力した。

2021年度に、大和市の「平和都市推進事業実行委員」の公募に応募。これまで組織的な平和活動に参加したことはなかったが、この3年間で大和市における住民運動の力強さを知ることができた。

今、大和市の住民として、これまで学んだ女性史や社会史の議論とオーラル・ヒストリー研究の手法を生かして、住んでいる地域と自分自身との関わりを見つめていきたいと願っている。そのためにも、「歴史工房やまと」で、仲間とディスカッションをしながら学びたい。さらに、地域で生きた人々の体験や経験を聞き取り、「聞き書き集」として残していきたい。

(主要著作) *Japanese Bankers in the City of London*, Routledge, 2000; (翻訳) ポール・トンプソン『記憶から歴史へ』青木書店、2002、「ジェンダーとグローバリゼーション—日本人のディアスポラ」『日本の組織—社縁文化とインフォーマなる活動』2003、「女性史からジェンダー史へ—方法論と資料の多様化」『イギリス近現代女性史研究入門』2006、『市民のオーラル・ヒストリー：歴史を書く力を取り戻す』2008、「口述文化と文字世界—シティ・オブ・ロンドンに見られた労働文化の伝達」『識字と読書—リテラシーの比較社会史』2010他。

これまで、「歴史工房やまと」に関心を持ってくださった方々には、来年度以降の活動の議論に参加していただければ幸いです。ご連絡をお待ちしております。(酒井 080-4201-7568)

【参考資料1】*****
地域におけるオーラル・ヒストリー・プロジェクト実施プラン概要（原案として作成 今後検討）

文責：酒井順子

1. オーラル・ヒストリーとは
 オーラル・ヒストリーとは、人々の語りを一次資料として、歴史を考察し、叙述していく歴史手法である。英米をはじめ世界各地で1960年代から「民衆史」の一分野として発展してきた。
2. 地域におけるオーラル・ヒストリー・プロジェクトとは
 地域におけるオーラル・ヒストリーは、コミュニティ・オーラル・ヒストリーと言われる。地域における課題を人々の語る言葉から歴史叙述を描いていくプロジェクトで、しばしばコミュニティにおけるアイデンティティを高めるといふ成果を出している。
 また、公式の歴史叙述には書かれない体験や経験をオーラル・ヒストリーで発掘し、公開することにより、社会的理解を拓いていくことができる。労働史、移民史、女性史の分野で成果が多い。
3. 担い手・目的とテーマ
 このコミュニティ・プロジェクトは、担い手を一般市民で個人史や社会史に関心をもって歴史研究を志したいと思っている人とする。（その際、オーラル・ヒストリー研究の専門家や地域史の専門家と連携し、助言を仰ぐ）。テーマは、地域の社会史、地域の住民の活動などから、担い手が選んでいく。
 このプロジェクトは、個人が主体であり、責任の所在は個人にある。
4. スケジュール： 半年から一年をかけて準備をする。
 - ① 賛同者を募る 雪だるま方式で共感してくださる話し手とインタビュアーを探していく。
 - ② 他の事例を知り、方法と倫理について学習する
 - ③ 1960年代にオーラル・ヒストリーが民衆史の一分野として登場して以来、既に60年以上経過している。その間、方法論やテーマについての蓄積は著しい。そうした過去の蓄積をきちんと学んでいく
 - ④ テーマを持つ：それぞれの地域には、固有の課題がある。同時に、オーラル・ヒストリーの強みである社会史の課題（ジェンダー、クラス、エスニシティ）を分析軸とする課題）もある。そうした課題からオーラル・ヒストリー・プロジェクト実践者がそれぞれテーマを持つ。
 - ⑤ インタビュー 記録の整理
 - ⑥ 解釈と歴史叙述→成果の発表
 - ⑦ インターネットに載せない。記録としての録音を資料化できるアーカイブの設立を視野に入れるが、当面はインタビュアーの責任で叙述
 - ⑧ 同人誌を作って紙媒体で発表する。その際話し手が望まない限りは、匿名として個人情報は一切出さない。（欧米では、一人の話を複数の人の話として叙述する場合もある）。貴重な資料であることと個人を守ることとを両立させるためにはオーラル・ヒストリー・アーカイブの設立が急務である。しかし、これは個人では難しいので、今後学会や政府機関に働きかけていく。
5. 同意の重要性・倫理規定
 話し手の同意を得る方法について十分に検討する。プライバシーの保護と著作権を守る基準を作る
6. 録音機器とデジタル化について
 録音はテープ、ICレコーダー、スマホの録音機能
 当面は、書き起こしと担い手による解釈・叙述を最終ゴールとする Youtube やTickTokはゴールとしない
7. 参考になる資料・ウェブサイト
 ポール・トンプソン『記憶から歴史へ』2002年。
 酒井順子『市民のオーラル・ヒストリー』2008年。
 Oral History Society, *Community Projects*,
 file:///C:/Users/Jai%20Eng/Desktop/For%20community%20groups%20-%20Oral%20History%20Society.pdf : 2023年8月15日閲覧
 そのほか多数（酒井に問い合わせてください）

【参考資料2】「これまでの工房だより 1～4号の要約」*****

◆工房便り No.1 (2023年8月25日)

前回、8月16日に何人かの方に、やまとにおける地域の聞き書き学習をすることを提案。

地域における聞き書きの実践は、オーラル・ヒストリーの手法をイギリスで学び、日本でも東京でオーラル・ヒストリーの研究グループに所属して、多くの聞き書きをしてきた酒井の長年の希望でした。もう無理かもしれないとあきらめかけたりしていましたが、今新たにもう一度挑戦してみようと決意し、何人かの方にお話ししたところ賛同していただける方に出会えました。まだまだ多大な準備と努力が必要だと承知していましたが、決意をした後の進捗状況を逐次ご報告したいと思います。ご覧いただければ幸いです。

1. 学習グループ名を「歴史工房やまと」英文名を「History Workshop in Yamato」として、市民活動支援センター「ペテルギウス」に申請いたしました。歴史工房とは、History Workshop の訳ですが、History Workshop はイギリスで1960年代に設立された歴史研究グループの名称です。当時は在野の若い女性研究者（フェミニスト）や労働史研究者が中心で、拠点はオックスフォードのラスキンカレッジでした。ラスキンカレッジは、オックスフォードのカレッジとしては珍しい労働者の社会教育を行っていたカレッジでした。ヒストリー・ワークショップは女性の経験や労働者の経験を描くと同時に「新しい歴史学」として多くの知見を示してきました。歴史工房はその日本語訳でもあります。同時に「工房」には、職人が集いこつこつものづくりをしていく場所というイメージがあります。聞き書きという既存の歴史学とは異なる資料を基に、こつこつと歴史を学び、自ら歴史を描いていく市民の集う場をイメージしています。

この工房が、私たちが歴史を学び、考え、描いていく場になるように努力していきます。

2. ペテルギウスでの申請が評価されるのは9月末です。活動センターのスタッフと市の市民活動課との会議が9月末に開かれて、決定されます。
3. 9月の目標は、地域史の課題を文献によって学んでいくことにします。同時に地域史の専門家がいらっしゃるかどうかが調べて、支援をいただけるかどうかを検討していきます。
4. 地味で、目立たない学習ですが、賛同者がいらっしゃるかどうかが探していきたいと思っています。現在、賛同いただいた方は、酒井を含めて4人です。
5. こうした学習グループを軌道に乗せていくために、ご意見等いただけるとありがたいです。

◆工房便り No.2

工房便り No.2 (2023年10月)

〈お知らせ〉

「歴史工房やまと」は市民による学習サークルとして、市民活動センターを活動拠点とすることが先月末の市民活動課と市民活動センターとの会議で認められました。今後は、同センターで会議室を借りたり、コピー機を使用したりすることなどができます。

この会の目的は、聞き書きを中心として、やまとの近現代の歴史を学び、自ら歴史を書いていき、冊子を作っていくことを目的とすると届けております。

現在、口頭で賛同して下さっている方は5人です。

(今後の予定)

当サークルは、主として女性による女性の歴史を対象としていきますが、男性のかたからの聞き書きも対象としていきます。会の運営方法、会則については参加者がいる程度集まったら話し合います。

*講演会を12月1日に開催する

神奈川県や東京都でこれまで数多くの女性史研究グループの指導をしてこれ、また国立女性教育会館で資料収集委員をつとめておられる江刺昭子先生に市民学習サークルの在り方について講演していただきます。江刺先生は、数々の文学賞を受賞され、また長年女性史編纂にかかわって来られました。同時に市民による女性史サークルの指導をしてこれられました。その活動と研究手法について話していただきます。

- ① 地域における女性史研究のあゆみー神奈川県の女性史『夜明けの航跡』とその後の全国的展開
- ② 神奈川県の女性史の可能性ー分野、方法、近現代日本における全体史との関連
- ③ 市民学習サークルの在り方についてー江刺先生の30年以上の市民活動指導経験から

*会員募集、会の在り方についての課題（会員の集め方について）

有志だけで、数人のオーラル・ヒストリーグループとして始める その際、福祉、保育介護、防災などのテーマの方が行政の受けが良くなる？

市民活動として、広く会員を募集する。その場合、行政や施設とどのように調節したらよいのだろうか

会の実際の活動について、どういう戦術が立ち上げ可能か、また持続可能か
オーラル・ヒストリー・プロジェクトに絞る。その場合、大和市の歴史の勉強、そして、テーマを絞っていく
大和市の歴史を、講師を招いて学んでいく。並行して聞き書きプロジェクト
成果としての冊子は、手作りのホッチキス留めでも簡易製本でも良いとする

スケジュールとしては、今年度中に軌道に乗せたい。

◆工房便り No. 3

工房便り No. 3 (2023年10月30日) 講座開始準備について

これまでの状況:「歴史工房やまと」は市民による学習サークルとして、市民活動センターを活動拠点とすることが先月末の市民活動課と市民活動センターとの会議で認められました。今後は、同センターで会議室を借りたり、コピー機を使用したりすることなどができます。

この会の目的は、聞き書きを中心として、やまとの近現代の歴史を学び、自ら歴史を書いていき、同人誌を作っていくことを目的とすると届けております。できれば、オーラル・ヒストリーの実践にこだわりたいと思っていますが、「オーラル・ヒストリー」はまだ社会的に十分認知されていないので、「聞き書き」を表題に掲げて活動していきたいと思っています。しかし、聞き書きもオーラル・ヒストリーの手法の一つと言えますので、聞き書きを実践しつつ、聞き書きを越えていきたいと思っています。

現在、口頭で賛同してくださっている方は5人です。

10月5日 神奈川県内(横浜、厚木、茅ヶ崎、鎌倉など)で女性史グループを指導してきた江刺昭子さんに学習グループ立ち上げについて相談、講座を開くなら講演をしてくださるとのこと

10月下旬、市民活動センターでチラシの配布の仕方等についてお伺いした。

11月10日「市民活動センター」のニューズレター『あの手この手』にチラシを入れてもらえることになった。

12月1日に「聞き書き講座 in やまと」を開催予定 (文責 酒井順子)

◆工房便り No. 4 (2023年11月23日)

これまでの状況:12月1日に大和市民活動センター「ペテルギウス」で開催する「第1回聞き書き講座の準備をしています。第1回聞き書き講座では、女性史研究者江刺昭子さんを講師にお招きし、「聞き書き」の意義と魅力についてお話していただきます。神奈川県で編纂された女性史『夜明けの航跡』(1987年刊行)で専門指導員として市民ボランティアの指導をされて以来、神奈川県と東京都で女性史編さんに関わり、さらに女性史学習グループの指導をしてこられた。またノンフィクションライターとして女性たちの評伝を書いてこられた。

10月5日 神奈川県内(横浜、厚木、茅ヶ崎、鎌倉など)で女性史グループを指導してきた江刺昭子さんに学習グループ立ち上げについて相談、講座を開くなら講演をしてくださるとのこと

10月下旬、市民活動センターでチラシの配布の仕方等についてお伺いした。

11月10日「市民活動センター」のニューズレター『あの手この手』にチラシを入れてもらえることになった。

12月1日に「聞き書き講座 in やまと」を開催予定。

大和で聞き書きをしてみませんか？ 「大和で生きた人々への聞き書きプロジェクト」



大和市には、農業や商業で、教育で、社会活動で、ボランティアで、街の発展を支えてきた人々がたくさんいらっしゃいます。その方たちの活動や生き方の軌跡を聞いて、私たちの街の歴史を一緒に考えてみませんか？

以下の日程で講演会を開き、聞き書きからわかる歴史の意義と手法を学習します。
皆様のご参加をお待ちしています。

日時：2023年12月1日（金）2時～4時

場所：大和市民活動センター 「ペテルギウス」 （大和市深見西1-2-17）

講師：江刺昭子（女性史研究者、国立女性教育会館女性アーカイブ資料選定委員） 原爆作家大田洋子の評伝『草鯉（くさずえ）』で、第12回田村俊子賞受賞（1972）。神奈川県内で、女性史編纂・女性史学習グループの指導に関わってきた。第59回神奈川文化賞受賞（2010）。

資料代：500円

主催：歴史工房やまと

事前申し込み不要

問い合わせ：rekishikoboyamato@gmail.com

「歴史工房やまと」は市民による歴史研究ワークショップです。主として聞き書きの手法により、大和の近現代史を学ぶために立ち上げました。学んだ歴史事象や聞き書き資料の考察は、同人誌を編纂して発表していく予定です。参加ご希望の方はぜひご連絡ください（上記メアドまで）。月1回程度集まることを予定しています。

大和で聞き書きをしてみませんか？

——大和で生きた人々への聞き書きプロジェクト——

「歴史工房やまと」主催

第2回「聞き書き講座（自主学習会）」

ピア・インタビューと倫理問題の確認

日時 2023年1月19日（金）14時～16時

場所 大和市民活動センター「ベテルギウス」1階会議室

参加費・資料代 500円（事前申し込み。当日参加も可）

rekishikobo@gmail.com

080—4201—7568（酒井）への連絡も可

持ち物 ICレコーダー、スマホ（録音できるもの）、テープレコーダーなど録音できる機器

（見学だけでもOK, その場合録音機器は持ってこなくても可）

今回は、録音しながら、参加者がお互いにインタビューをします（1人10分ぐらい）。インタビューをした後、どのように感じたか話し合ってみましょう。

次に、インタビューを行う時に確認しておくべきこと（同意を得ること、実名と仮名、プライバシーをどのように守るか、著作権の考え方、聞きたいことと聞けないこと、聞き手と話し手の力関係、録音資料の保管など）の倫理問題について、用意した資料を基に意見交換をします。インタビュー経験のある方はご自身の経験をお話してください。聞き書きを始める方は経験された方から学びましょう。

最後に、参加者が聞き書きをしたいと思っている人について、またこのプロジェクトの今後の予定等についてのご意見をお聞きします。

聞き書きプロジェクト「この指とまれ」 《スケジュール》

第1回 12月1日 江刺昭子さんの講演

第2回 1月19日 ピア・インタビューと倫理

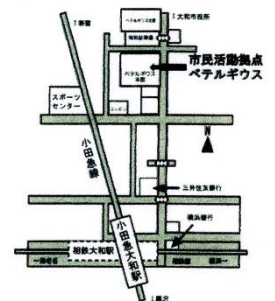
第3回 2月24日 インタビューの対象者を決める大和の近代史

第4回 3月(予定) インタビューの依頼状を書く大和の現代史

第5回 4月(予定) 聞き書きの発表

第6回 5月(予定) 聞き書きの発表

第7回 6月(予定) 手作り聞き書き集作成



「歴史工房やまと (History Workshop in Yamato)」は市民による歴史研究ワークショップです。主として聞き書きの手法により、大和の近現代史を学ぶために立ち上げました。学んだ歴史事象や聞き書き資料の考察は、同人誌を編纂して発表していく予定です。「歴史工房やまと」に参加ご希望の方はぜひご連絡ください（上記メアドまで）。月1回程度集まることを予定しています。